

当院における分娩統計

2024.1

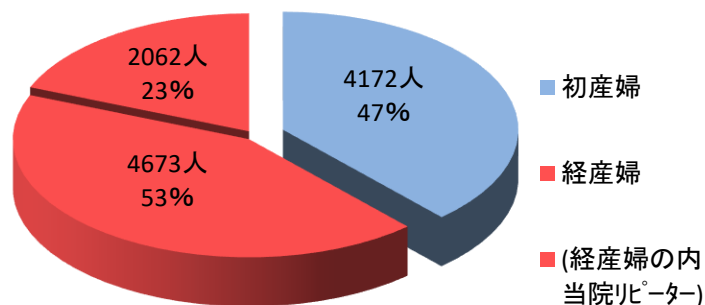
2000年(平成11年)11月の開院以来、2023年(令和5年)12月までの約22年間の間に**8845名**の赤ちゃんがお産まれになりました。

2023年度は分娩件数418件でした。初産婦さん208件(50%)、経産婦さん210件(50%)、リピーター90件(22%)でした。自然分娩280件(67%)、帝王切開36件(9%)、吸引分娩102件(24%)でした。無痛分娩の増加に伴い、微弱陣痛による陣痛促進、吸引分娩が増加する傾向にあります。

今回はこれを総括し、見直し、皆様にご報告させていただくとともに、私どもの今後の診療指標としても活用してゆきたいと考えております。

ご来院いただいた多くの患者様には、心より感謝申し上げますとともにお子様の健やかなる成長をスタッフ一同願っております。

①初産婦と経産婦の比率(8845名)



1. 初産婦さんの経産婦さんの内訳

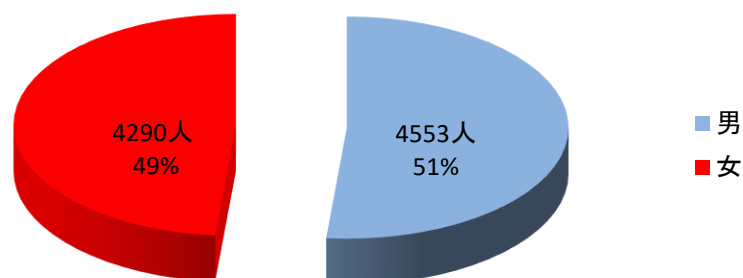
総数**8845名**の出産のうち、初産婦さんは**4172名(47%)** 経産婦さんは**4673名(53%)**と少し経産婦さんの方が多めでした。

前回も当院でお産をされているリピーターの方は**2062名(総数の23%、経産婦さんの44%)**となりました。

その中には、当院で5名のお子さんすべてを出産された方もいらっしゃいました。また、4回とも当院で帝王切開での出産をされた方もいらっしゃいました。

このように、繰り返しお越しいただけることは誠にありがたいことで、お互いの関係も密になりスムーズなお産や育児スタートに寄与したものと思われま

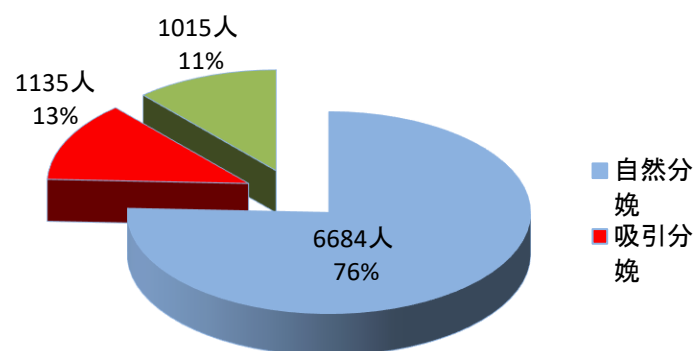
②出生児の性別(8845名)



2.出生時の性別について

4553名(51%)が男児、4290名(49%)が女児でした。
昨年の全国統計をみても、男児:女児は52%:48%でしたので
平均的割合といえると思います。
最近では、性別を産み分ける希望をされる方も増えていますが、
環境因子やさまざまな要因が性別に影響を及ぼす
可能性があるものと思われます。

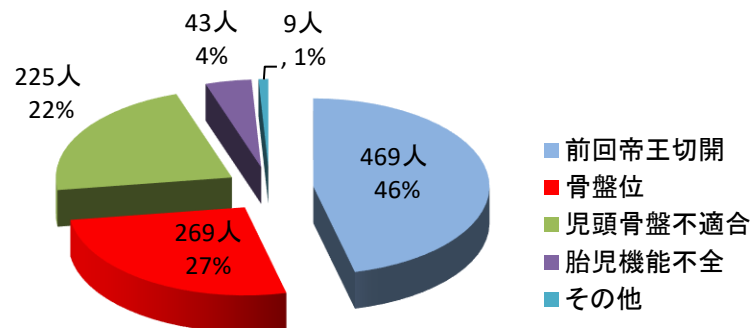
③分娩様式(8845名)



3.分娩様式について

自然分娩(経膈分娩)で出産された方が6684名(76%)をしめています。骨盤位(逆子)や前回帝王切開分娩をされているなどの理由で帝王切開で出産された方1015名(11%)でした。
微弱陣痛などのために胎児が出てこれない場合や胎児の状態が不安定なために分娩を急がないと危険なために吸引分娩を選択した方が1135名(13%)ありました。2023年の1年間をみれば418件の分娩があり、その内自然分娩が280名67%、帝王切開が36名9%吸引分娩が102名24%でした。
無痛分娩の増加に伴って吸引分娩が増加する傾向にありますが、詳細は無痛分娩の項を御覧下さい。

④帝王切開となった理由（1015件）

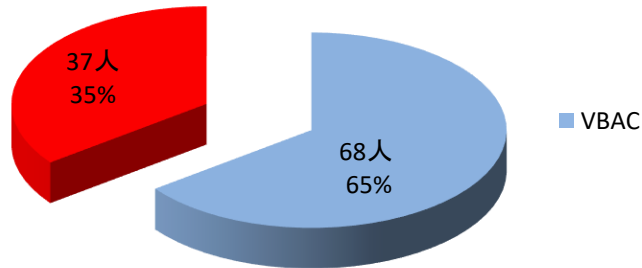


4.帝王切開となった理由

帝王切開総数**1015件**の内、前回帝王切開をうけておられる方が**469件（46%）**と最も多くを占めています。これには、後にお示しするVBAC(帝王切開後の経膈分娩)が不成功に終わった389件も含まれております。次に多いのは、骨盤位(逆子)が**269件(27%)**を占めています。その他、児頭骨盤不適合(骨盤が狭くお産が困難な場合)で**225件(22%)**、胎児機能不全(お産の際に赤ちゃんの状態が不安定になることです)での帝王切開が**43件(4%)**ありました。

最近では、出産に関しては安全性がもっとも重視されるあまりに帝王切開率が上昇しております。VBACの適応が変わり、前回帝王切開の方は、次の出産時も帝王切開になる方が増えた為、当院でも帝王切開率は増えております。手術の必要性を正確に判断することは非常に重要でありますし、その選択も時によっては一刻を争うような場合もございます。そのような中でも、当院では妊娠分娩管理の充実により帝王切開率を少しでも下げれるよう努力して参りました。今後も当院での重要課題のひとつとして取り組んでいきたいと考えております。

⑤VBAC(105名)



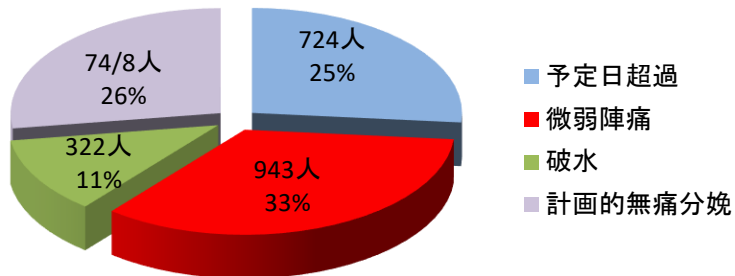
5.VBAC(帝王切開後の経膈分娩)

前回帝王切開で出産されていても、手術となった理由やその後の経過、また今回の妊娠の状況によっては経膈分娩が可能な場合があります。詳細は担当医にご確認ください。

当院では前回帝王切開で出産された方が469名おられ、その内**105名(22%)**の方がVBACをご希望になられました。しかし、ご希望通りに経膈分娩をされた方が**68名(65%)**で、残りの**37名(35%)**の方は帝王切開での出産となりました。

これらの方で異常のために帝王切開となった方は1名もおられませんでした。現在は、以前に当院で帝王切開を実施した経膈分娩の経験のある患者様のみに限定させて頂いております。ご了承くださいませ。

⑥促進分娩の理由(2892例)



6.陣痛促進の現状について

当院では、原則的に自然陣痛を待ってお産をしていただいております。しかし必要があれば、母児の安全のためには陣痛促進を必要とする場合がございます。これまで、**2892名(経膈分娩の内43%)**に陣痛促進を行っております。その内訳は、陣痛が始まっているも微弱なためにお産が進行しない場合が**943名(33%)**と最も多く、次いで分娩予定日を過ぎても陣痛が始まらず、出産が妊娠42週を超える可能性がある場合が**724名(25%)**、破水後にもかかわらず陣痛がおこらない場合が**322名(11%)**となっております。

その他、計画的無痛分娩での陣痛促進を**748例(31%)**に行いました。以前と比較して、無痛分娩の為の陣痛促進が増加しております。一部には必要性が重複した例もございましたが、主な理由にかぎり報告させていただきます。

R5年度の総括

R5年度の分娩総数は**418件**でした。

初産婦さん**208件(50%)**、経産婦さん**210件(50%)**でした。リピーターさん**90件(総数の22%、経産婦の43%)**でした。

分娩様式としては、帝王切開**36件(9%)**、吸引分娩**102件(24%)**でした。

帝王切開の理由としては、前回帝王切開**21件(58%)**、骨盤位**7件(19%)**、胎児機能不全**2件(6%)**、
児頭骨盤不適合**6件(17%)**でした。

吸引分娩の理由としては、胎児機能不全**24件(24%)**、児頭下降不良**27件(26%)**、腹圧不全**48件(47%)**でした。

吸引分娩自体の割合は3%の増加にとどまっておりますが、無痛分娩の増加に伴い、吸引分娩が増加する傾向にあります。

詳細は無痛分娩の項をご参照ください。

